

# 船舶事故調査報告書

平成元年 1 2 月 1 8 日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和元年 8 月 1 7 日 1 0 時 2 5 分ごろ
発生場所	愛媛県伊方町三机港北方沖 <small>ふすま</small> 襖鼻灯台から真方位 3 2 2 ° 1 海里付近 （概位 北緯 3 3 ° 2 9 . 2 ' 東経 1 3 2 ° 1 4 . 8 ' ）
事故の概要	プレジャーボート太亀丸は、漂泊状態から発進し、徐々に左転していたところ、漂泊中のプレジャーボート光丸に衝突した。
事故調査の経過	令和元年 9 月 3 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 太亀丸、2.2 トン E H 3 - 5 4 3 0 7 （漁船登録番号）、個人所有 第 2 8 1 - 2 5 2 1 9 号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 光丸、5 トン未満（長さ 8.44 m） 2 8 1 - 3 4 6 4 7 愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長 A、一級小型・特殊・特定 B 船長 B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首部防舷帯に擦過傷 B 左舷船尾部防舷帯に欠損及び擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約 1.7 m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時
事故の経過	<p>A 船は、船長 A が 1 人で乗り組み、釣り場を移動する際、船長 A が後部甲板にある操縦区画で釣り道具の手入れをしながら発進し、徐々に左転していたところ B 船に衝突した。</p> <p>船長 A は、発進する際、B 船が A 船の操舵室により生じた左舷船首方の死角に入っていることに気付かなかったもので、前路に他船がいらないと思い込んでいたと本事故後に思った。</p> <p>B 船は、船長 B が 1 人で乗り組み、A 船の左舷船首方 20 m 付近で、船長 B が右舷方を向いて立って釣りを行いながら漂泊中、A 船が衝突した。</p> <p>A 船及び B 船の周囲約 100 m の範囲には、7 ～ 8 隻の釣り船が漂泊していた。</p>
分析	<p>A 船は、漂泊状態から発進する際、船長 A が、B 船が A 船の操舵室により生じた左舷船首方の死角に入っていることに気付いておらず、前路に他船がいらないと思い込んだまま発進したことから、徐々に左転して B 船に衝突したものと考えられる。</p>

	<p>B 船は、漂泊中、船長Bが、右舷方を向いて立って釣りを行っていたところ、徐々に左転してきたA 船が衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、A 船が漂泊状態から発進する際、船長Aが、B 船がA 船の操舵室により生じた左舷船首方の死角に入っていることに気付いておらず、前路に他船がないと思い込んだまま発進したため、徐々に左転してB 船に衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、多数の釣り船等が集まっている場所において、移動する際、操舵室の死角などに他船が隠れていることがあるので、周囲の安全を十分に確認した上で発進するとともに、周囲の適切な見張り と 操船を行うこと。</li> </ul>